

現況分析における顕著な変化に  
ついての説明書

教 育

平成22年6月

愛媛大学

## 目 次

2. 法文学研究科	1
3. 教育学部	2
6. 医学部	3
7. 医学系研究科	4

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 愛媛大学

学部・研究科等名 法文学研究科

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 II 教育内容

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

## ○顕著な変化のあった観点名 教育課程の編成

人文科学専攻及び総合法政策専攻は、それぞれの教育領域を考慮しつつ、形成的評価を取り入れたコースワークの充実に取り組んだ。

人文科学専攻では、修士論文の作成指導に段階ごとの発表機会を設定し、教育効果を上げようとしている。平成19年度に専攻全体で行う修士論文「成果発表会」(3月)を実施したが、平成20年度以降は1年次終了時に修士論文作成に向けて関連研究分野で行う「構想発表会」と、2年次秋期に2つの研究領域(人間文化研究と言語文化研究)に分かれて行う「中間発表会」を加えて、年3回の発表会を制度化し、指導教員による個別的指導法から全教員による組織的指導体制にすることによって、教育成果の達成度評価の透明性を確保した。さらに、大学院生ポートフォリオの作成による指導教員との緊密な指導を組み合わせることで形成的評価を行い、有効な教育課程を形成した。

総合法政策専攻では、コースワークによる指導という観点から、主指導教員及び副指導教員による複数指導体制を新たに取ることとした。また、修士論文作成のプロセスにおいて多数の教員を前に学生が論文の骨子を報告するプレゼンテーション会を教育研究領域ごとに開催し、コースワークによる論文指導を取り入れた。

修了予定者を対象とした「成果発表会アンケート」の結果によると、「このような研究成果発表会の実施は意義がある。」という項目に対して、全員が「強くそう思う」あるいは「そう思う」と回答しており、また自由記述の意見からも、学生からの評価は高いことを示している(下表参照)。

## 成果発表会アンケート(平成21年度)

	強くそう思う	そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
このような研究成果発表会の実施は意義がある。	2	8	0	0
自分の履修計画及び研究計画は適切であった。	1	3	5	1
自分が立てた研究目標を達成できた。	0	8	1	1
発表会で研究成果を的確簡明に伝えることができた。	1	5	3	1

## 発表者の自由記述

- ◆発表会はその準備段階から発表会当日までの流れ自体が重要であると実感しました。準備→発表→反省→前進だと思います。社会に出ると人にわかりやすく説明する場面が多々あると思いますが、発表会はそのような意味でも有意義な会であると思います。ゆくゆくは分科会を作って発表者のブースに質問者が行ってディベートし合うようにすると各々の実力がつくように思います。
- ◆時間制限がかなりしっかりしており、順調に進行した点は良かった。ただ、質疑応答がものたりない部分もあった。

## 現況分析における顕著な変化についての説明書 (教育研究)

法人名 愛媛大学

学部・研究科等名 教育学部

### 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 教育内容

### 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

#### ○顕著な変化のあった観点名 学生や社会からの要請への対応

平成 20 年に、「地域連携実習」の意見交換会等で教育現場関係者から出された意見や中央審議会答申に基づき「教職課程のディプロマ・ポリシー」（以下、教職課程の DP）を作成した。これは本学として育成する教員像を明確にしたものであり、教員を目指すすべての学生に適用するものである。

この教職課程の DP で示す具体的な資質能力を習得させるための取組は、平成 20 年度『質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）』に採択され、2つの観点からカリキュラムを充実させることができた。1つは、教育学部以外の学生に対して「地域連携実習」や実践講話を含む「教職教養課題特講Ⅰ、Ⅱ」の開放である。教育学部以外から「地域連携実習」には 18 人、「課題特講Ⅰ、Ⅱ」にはそれぞれ 4、5 人ずつが参加した。こうした学習機会の提供は、教員を志望している他学部の学生に対して、大きな支援となっており、「地域連携実習」に参加する教育学部の教員志望学生にとっても、他学部学生が活動や授業に参加することで、教育学部での学びの大切さを実感する機会となっている。もう 1つは、最終の到達目標である教職課程の DP を達成するために、途中段階（2 年次末、3 年次末、4 年次前期末）に、それまでの学習をふり返り DP の達成状況を確認して自己教育課題を見出す「リフレクション・デイ（省察日）」の設定である。これは授業科目ではないが、体系的な学習を促すために必修の教職指導として実施するものであり、DP で示す資質能力を身に付け、社会から求められている教員に成長するための重要な取組となっている。

これらの取組に関する評価としては、平成 22 年 1 月 21 日に開催した、『平成 20 年度質の高い大学教育推進プログラム「教職課程の DP に基づく全学的教員養成改革」採択プログラム中間報告会』での学外の教育関係者からのコメントが挙げられる。また、報告会終了後に中間評価会を行い、下表に示すような高い評価（5 段階評価）を得ることができた。

項目	DPによる質の向上を目指す取組について	実践的指導力向上を目指す取組について	学習支援に関する取組について	学生の学びについて	総括評価
愛媛県教育委員会義務教育課指導主事	5	4	4	5	5
愛媛県教育委員会高校教育課指導主事	5	5	4	4	5
松山市教育委員会学校教育課指導主事	5	5	4	4	5
松山市校長会会長	5	4	4	5	4
松山市PTA連合会前会長	5	5	5	4	5
愛媛県教育会理事	5	4	4	4	5

5：大変充実した取組である，4：充実した取組である，3：どちらでもない，  
2：課題のある取組である，1：多くの課題がある取組である

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 愛媛大学

学部・研究科等名 医学部

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 II 教育内容

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

## ○顕著な変化のあった観点名 学生や社会からの要請への対応

地域社会からの強い要請である「地域医療を担う医療人養成」のため、平成21年1月に愛媛県からの寄附により地域医療学講座を設置した。同講座設置と同時に、教育研究の拠点として、県内の2ヶ所の医療機関（西予市立野村病院、久万高原町立病院）を地域サテライトセンターとした。地域サテライトセンターでは、平成21年度から医学科5回生の臨床実習（いずれかのセンターで1週間、全員必修）を5月から3月にかけて行うほか、地域特別枠で入学した学生（1回生）に対する体験実習（「総合臨床医コース」として9月に1週間、必修）や、6回生を対象とした選択制のクリニカル・クラークシップ実習を行っている。

このような教育内容が評価され、平成21年12月7日付の文部科学省の報道発表「平成22年度医学部入学定員の増員について」資料では、特色ある取組として取り上げられた7大学の一つとして、本学の地域サテライトセンターを中心とした教育内容が紹介されている（以下に引用）。

## ○地域の拠点を中心に、地域医療をにやう医師養成と地域医療の支援

## 愛媛大学

農山村地域に設置する「地域サテライトセンター」を教育研究の活動拠点として、学部各学年での実習教育、卒業教育、生涯教育を重点的に実施するとともに、地域医療を支援することにより、地域医療重視の医師養成と地域医療の質の向上を一体として取り組む。

また、地域医療に特に関心の強い学生（医学科・看護学科とも）を対象として、独自の地域医療研修を行い、地元住民とのふれあいを通して地域医療へのモチベーション向上を図った（右図参照）。平成22年3月の研修には、医学科学生9人、看護学科学生6人が参加した。これらの研修に際しては、愛媛大学教育改革促進事業により費用の一部を補助した。

春の伊予で、地域医療を体験して見ませんか。

## へき地医療研修

平成21年  
3月9日(月)～27日(金)実施  
上記期間内の2泊3日

内 容 1 医療現場の視察  
2 地域生活体験(温泉、等)  
対 象 医学部学生(学年は問いません)  
定 員 8名  
宿 泊 所 西予市立野村病院出張室  
参加費 無料  
集合場所: 西予市立野村病院 <http://nominura-hq.org/index.html>

主な行程  
・往診  
・病棟回診  
・へき地出張診療所  
・訪問看護  
・病棟での看護実習  
・つし苑での介護・リハビリ実習  
・外来実習  
・他職種の実務実習



申し込み: 愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座  
西予市サテライトセンター  
Tel: 0894-72-0180 Fax: 0894-72-0938  
E-mail: rrykawamo@yahoo.co.jp

## うりぼうネット in 野村町

## ～農村医療研究所～

「地域医療の現状は?」  
「地域医療ってどんな風に行われているの?」  
「地域ではどんな人々が医療に携わっているの?」  
など、地域医療に興味がある方、誰でも  
大歓迎です!! 実際に地域で働いている医療職の方の話を聞いたり  
地域産業に触れて、地域医療の良さを一緒に学びませんか!?



☆温泉やホワイトファーム  
(農場)で地域産業に触れ  
体験してみよう♪

☆学生同士でディスカッション  
をしたり、講演を聴いて地域  
医療に関する興味・関心を  
深めよう♪

\*開催日時  
・平成22年3月27・28日(土・日)  
・場所: 愛媛県野村町  
・参加費: 2500円  
・集合場所: 医学部コンコース  
・集合時間: Am9:00～  
・連絡先: uribunet@yahoo.co.jp

主催: 愛媛大学大学院医学系研究科  
地域医療学講座

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 愛媛大学

学部・研究科等名 医学系研究科

### 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 III 教育方法

### 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 主体的な学習を促す取組

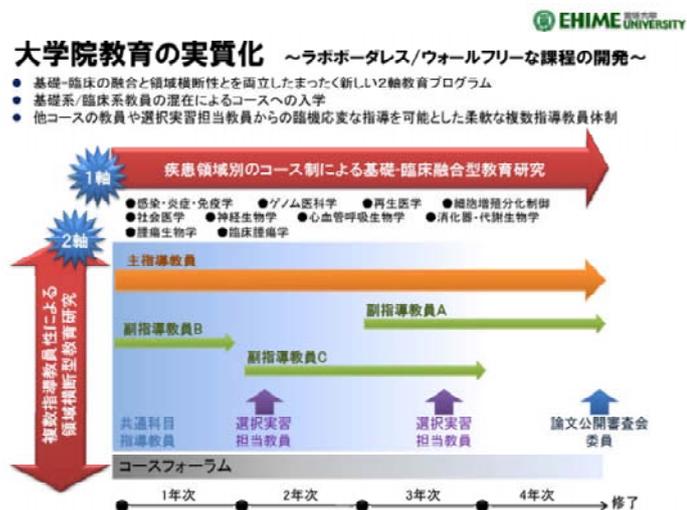
#### 1) 博士課程 (医学専攻)

平成 20 年度から 3 回生を対象とした大学院研究発表会でのポスター発表を義務付け、中間段階での自己評価や自己省察の機会とするほか、研究科の多くの教員からの指導が受けられるようにした。平成 21 年度からは講義・演習・実習のカリキュラムを再編し、大学院生がより自由に学習・研究を行うことができるものとした。これら研究室の枠を超えたコース制や複数指導教員制による

大学院生が主体的に学ぶ取組（「地域・大学一体型先導的研究者育成システム ～ラボ・ボーダレスと地域連携とによるウォールフリー教育の実践～」(上図参照)）は、平成 21 年度文部科学省「組織的な大学院教育改革推進プログラム」に採択（医療系 40 件申請中、7 件採択）された。また、従来の「研究科奨励賞」に加えて、このプログラムに基づいて「大学院生提案型研究プロジェクト助成」制度を新設し、大学院生による主体的な学習・研究を促すこととした。初年度（平成 21 年度）は 45 件の応募があり、そのうち優秀研究プロジェクト（50 万円）を 12 件、奨励研究プロジェクト（25 万円）を 10 件、それぞれ採択した。さらに、平成 22 年 3 月の医学専攻学務委員会において、次年度からは本助成制度において事前・事後の審査をより厳格に行うとともに、成果が期待される大学院生の研究プロジェクトについては重点的に助成する方針を確認した。

#### 2) 修士課程 (看護学専攻)

引き続き、学長裁量経費による「学生による調査・研究プロジェクト」（プロジェクト E）への申請を奨励している。その成果として、平成 21 年度の第 9 回「愛媛大学学生による調査・研究プロジェクト」（プロジェクト E）には看護学専攻から 2 件（10 件採択、うち大学院生は 2 件で看護学専攻のみ）が採択され、学内の研究成果発表会において最優秀賞（「がん闘病記に見る、患者が勇気づけられた他者の言動」）を受賞している。



## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 愛媛大学

学部・研究科等名 医学系研究科

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 V 進路・就職の状況

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

## ○顕著な変化のあった観点名 関係者からの評価

医学系研究科修了生が勤務する医療機関は重要な関係者であることから、本研究科の修了生がこれらの医療機関等からどのような評価を得ているかについて調査を行った。調査は、本研究科の平成19、20年度修了生が勤務する医療機関又は研究機関の病院長等又は直属の上司に対し実施し、医学専攻(博士課程)修了生46人中35人(76%)、看護学専攻(修士課程)修了生25人中22人(88%)について回答を得た。

医学専攻修了生が「博士課程を修了した臨床医としての期待に応えているか」という設問では、充分期待に応えているという回答を94%という高率で得ており、研究マインドを備えた実践力を有する医療人として良好な評価を得ていることが伺われた。また、看護学専攻修了生が「修士課程を修了した看護師として期待に応えているか」という設問では、73%が充分期待に応えているという回答を得ており、修士課程においても高度な専門知識及び能力を備えた看護職養成への期待に応えることができていると考えられる。さらに、医学専攻修了生の90%以上が「仕事に対する積極性はどうか」、「十分な判断力や思考力を備えているか」、「将来性はどうか」という設問すべてにおいて充分であるという高い評価を得、看護学専攻修了生においても各設問で充分であるという評価を68%、86%、82%と得ている。したがって、高度な知識を基盤とし、十分な判断力、思考力を備え、積極的に地域医療に取り組む姿勢を有した人材を育成しているという評価を、関連する医療機関や研究機関から得られているものと判断できる。

